



## 新会長就任のご挨拶

芋井地区住民自治協議会 会長 西澤一幸

長野市の都市内分権構想から住民自治協議会が生まれ 14 年になろうとしています。「自治」とは当事者＝自分たちの課題を自分たちが与えられた権限の中で解決することです。確かにインフラ整備とか防災(災害復旧)とか行政に頼らざるを得ない事案もありますが、まずはこの基本理念の上で活動をしていくべきだと思っております。

芋井地域全体は、中山間地の特有の問題を抱えた地域と自然環境の保護を最優先する観光地と住宅地が混在する地域が併在する地域です。

中山間地の属性に生きてきた人たちは高齢化、人口減少、農業の担い手不足の問題を抱えながらも、伝統やそれにまつわる歴史、文化をしっかりと守ってきた人たちです。そしてこの先どうやってそれを引き継いでいくんだろうと思う疑問にすらも、絶望的なまでもそれを必死に守ろうとしています。しかしながら、農業の担い手不足や、休耕地の増加に対しては、「生産組合」方式という学ぶべき立派な扶助の解決策も見出してきましたが、これも、これから何年か経てば「老々介護」のように睦まじくも、痛々しいものになってしまいます。これは飯綱高原地域におけるこれからの環境保護活動も伝統の継承も全くおなじことが言えます。

人口減少、空き家の増加が問題になれば、思いつくのが移住政策です。(古民家を活用した移住政策も一部では始まっておりますが)「行ってみたい」→「住んでみたい」→「住み続けたい」のステップアップごとのインフラ整備も大事ですが、受け入れ側としての精神性、つまり多様性や、異文化を許容する精神も必要です。もちろんこの地域の人たちはとても優しく、協力的であることは知っています。

こういった場所に移住して来ようと思っている人は、良かれあしかれ、「一家言」持っている人たちです。必ずしも「郷に入れば、郷に従え」の考え方だけではないということです。逆な言い方をすれば、その人たちの力が今後の地域づくりのための大きな貢献ももたらすということです。

これまでも、まだ途中でありますが、軍足池の「ふれあい祭り」や「ジャガイモ焼酎」も地域全体で多くの人たちが関わって行ってきました。「ふれあい祭り」は「飯縄火まつり」と併せてこの地域の「2大祭り」にしたいです。そして開設された「森の駅」を活用するためにも、リンゴをはじめとする農産物だけではなく、「6次産業としての」焼酎の次の特産物も生み出せればと思います。

最初に戻りますが、この地域に住む、あるいは関わる皆さん全体がこの地域の課題に一緒に取り組み、かつ役割をはたすことが重要です。

「限界集落」などというおどろおどろしい言葉が使われて久しくなった今日、「どっこい俺たちだって生きてるんだ」という気概に満ちた地域づくりのために、力と知恵を貸してください。